

## 第53回

マスカット/オマーン  
*Muscat Sultanate of Oman*

# わが中東放浪記

リクルート=スタディサプリ講師 村山 秀太郎

## 仲介国など要らん！

イランはオマーン以外に頼る国はないはずだった。2026年2月26日、核開発をめぐるイランとアメリカの交渉がオマーン外相の仲介でジュネーヴで行われた。28日、イランが核関連物質の濃度を薄める方向で同意した可能性がある、と説明する外相の発言があったが、その一方で、アメリカのトランプ大統領は、イランの交渉姿勢に不満を示しており、「十分な譲歩がない」と批判した。そして28日朝、イスラエルとアメリカがイラン猛攻撃を開始した。その報復の一環として、イランは3月1日に2機のドローンでオマーンのドゥクム港を攻撃した。イランは仲介国を自ら失ってしまった。

## オマーン帝国の興亡

インド洋交易の拠点として栄えたオマーンは、7世紀にイスラーム化した。ポルトガルは1507年にオマーンのマスカット、1515年にサ

ファヴィー朝イランのホルムズ島を占領した。1622年にサファヴィー朝のアッバース1世がホルムズ島を奪還、それに先立つ1615年にはイギリスと協力しポルトガルを追放し、港町バンダレ・アッバースを建設した。現在のイランがイスラーム教シーア派なのは、サファヴィー朝が同派を国教としたからだ。オマーンのイスラーム国家は1650年にはポルトガルを破ってマスカットを奪回、その後、アフリカ東海岸からポルトガル勢力を駆逐した。オマーンはイスラーム世界外の非イスラーム教徒を売買するザンジバル(現タンザニア)での奴隷交易に従事した。奴隷貿易禁止の気運がヨーロッパで高まり、英国が1807年に奴隷貿易禁止をオマーンにも強要した結果、アフリカとインドを結ぶオマーンの交易活動は大きく制限された。さらには後継者争いとザンジバルとの分裂もあり、オマーン帝国は衰退した。

## 「ユクリン」って、どこ？

2002年に、私のアラビア語の師匠から「マスカットにアラブサミットの会場になったアル・ブスタンという豪華ホテルがある」という話を聞き、オマーンに行ってみたくなった。マスカット空港からタクシーで直接ホテルを目指したが、値段次第では泊まらないつもりだったので、ドライバーにはエントランスの前で待ってもらった。フロントでシングルルームの価格を尋ねる

